



電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)
ニューズレター (2021 年度 No.1)
<http://www.hcg-ieice.org/archives/newsletters/>



～ 目次 ～

- ◆ 2021 年度運営委員長からのご挨拶
- ◆ FIT2021 (第 20 回情報科学技術フォーラム) 開催のご案内
- ◆ HCG シンポジウム 2021 への投稿のご案内
- ◆ 研究会活動紹介 (HCS 研究会)
- ◆ 研究会発足以来の経過と解散について (ADD 研究会)

2021 年度運営委員長からのご挨拶

委員長
間瀬健二 (名古屋大)

2021 年度ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) 運営委員長を仰せつかりました名古屋大学の間瀬健二です。東大の原島博先生の研究グループの知的符号化通信の研究に触発され、NTT 時代に顔画像の表情認識など画像処理を使ったヒューマンインタフェース応用、すなわち Perceptual User Interface (PUI) に興味を持ちこの分野に飛び込みました。さらに表層的な PUI では表情やジェスチャの意図が伝わらないと考えて、ATR ではコミュニケーションの支援まで研究を広げてきました。その後、コミュニケーションの用いられる文脈理解や、体験の獲得、集積、共有、体験の知識化といったことに展開し、最近では、技能伝承、介護支援やコーチング支援の研究に取り組んでいます。振り返ってみれば HCG の分野に密接に関連する研究テーマに関わってきたことになり、HCG の活動はまさしく、我が意を得たり、この分野のますますの発展に貢献したいと思う所存です。今回、運営委員長をお引き受けするにあたり、微力ながら HCG の活動を盛り上げられればと思います。よろしくお願い致します。

さて、2020 年からつづく新型コロナウイルスのパンデミックは、我々の歴史において未曾有の事態をもたらしています。人と接することが危険であるという状況は、グローバルな社会活動、経済活動がコミュニケーションを核として発展してきた現代社会にとって、一層深刻な厄災といえましょう。幸いなことにデジタルコミュニケーション技術が準備されていたおかげで、社会活動が完全に停滞することなく、持ちこたえているのはありがたいことです。このパンデミックによって、我々が目指していた、コミュニケーションやビジネス・教育・研究のデジタル化、すなわちデジタルトランスフォーメーション (DX)

が否応なしに進んだことは、皮肉なことですが、これを機に更なるデジタル化が進む一方で、コミュニケーションの本質を解明することが求められるでしょう。また負の側面も露わになってくるでしょう。コロナ禍がいずれ、早期に克服されると期待しますが、その際にもこれらのツールが利便性とともにも活用され、あらゆる分野において以前とは異なる様式になるはずで。そのとき、ヒューマンコミュニケーションの専門家として、我々はこれらのツールの再評価をしつつ新しい社会のコミュニケーションスタイルを設計することになるでしょう。また、デジタルトランスフォーメーションがもたらす社会的インパクトについて、便益だけでなくデメリットにも注意を払う必要があります。Society5.0 の時代に、私たちはどのような社会に住みたいのか、真剣に考え、コミュニケーション学の観点から社会に提案していく必要があります。

このような中で、運営委員長として今年度は2つの活動に重点を置くことを考えています。1つ目は、HCG内でのDXの深化です。既に、各研究会の活動はオンライン化が定着し、シンポジウムもオンライン実施を決定しました。その中で、対面で集まることで自然に出来ていた創発的な出会いや新たな研究の相談、若手の学会活動への関心誘発などに困難を感じていると思います。DXにおける解を探求したいところです。また、オンライン化の追求だけでなく、ハイブリッド化においても、研究会等で新しい取り組みにチャレンジされるものと思います。そのような新しい取り組みの経験をHCG内で共有する場を設けたいと思います。2つ目は、HCGの財政基盤を強化するための長期プランの構築です。学会における技術研究報告(技報)の電子化によって研究会の安定した収入源だった技報の冊子講読予約が一旦ゼロになり、主な収入源は電子的な技報のダウンロード権収入に移行しました。いまはサブスクリプションシステム変更による登録者数減少の谷間にあります。これを乗り越えて、健全な財政基盤の上にグループの活動が進められるよう、実現性の高い将来構想を各研専と一緒に策定し、学会から信頼される運営を進めていきたいと思ひます。

この一年、運営委員会とグループのコミュニティ全体の皆様と協力してHCGの各分野の研究活動を盛り上げて行きたいと思ひますので、ご協力のほどよろしくお願いしします。

FIT2021(第20回情報科学技術フォーラム)開催のご案内

企画幹事
三浦貴大(産総研)

電子情報通信学会(ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)、情報・システムソサイエティ(ISS))と情報処理学会(IPSJ)が共同して主催する、FIT2021(第20回情報科学技術フォーラム)についてご案内いたします。

- ・会期:2021年8月25日(水)~27日(金)
- ・会場:オンライン開催

2002年から毎年開催されている本フォーラムは、IPSJ 全国大会と ISS ソサイエティ大会の流れを汲むものです。従来の学会大会の形式にとらわれない試みを新たに導入しており、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流などを実現しています。特に、FIT2019より新設された「トップコンファレンスセッション」は、各分野におけるトップレベルの国際会議・学術雑誌にここ数年以内に採録された論文について、著者ご自身からご紹介頂くものです。3日間の会期を通して、7セッション、41件の発表がなされる予定です。時流を踏まえたイベントも多く企画されており、コロナ時代を踏まえた講演会の他、Society 5.0などの社会変革に対応するものなどのテーマについて講演がなされます。さらに、一般に向けた無料公開セッションとして、大学入学共通テスト「情報」が目指すもの、データサイエンティスト人材育成に関する情報処理学会の取り組みのような、情報教育やAI人材育成に関するイベントも行われます。さらに、情報技術分野における顕著な業績に対して贈られるFIT2021 船井業績賞を受賞される Sheree K. Nayer 氏 (Columbia University)による受賞記念講演「Computational Cameras for Humans and Machines」が8月26日(木)に予定されています。他にも、以下のような情報科学技術に関する様々なテーマによる発表会・研究会企画によるイベントが開催されますので、是非ご参加下さい。

【8月25日(水)】

- ・人間・ロボットの協調のためのCV/PR技術
- ・秘匿計算の最前線
- ・次に来るコミュニケーション・ツールは何か？
～ネット炎上対策は？新しいデザインと留意点を考える～
- ・デジタルプラクティスライブ
- ・トップコンファレンスセッション
(アルゴリズムとデータベース、インタラクションとモバイルの2件)

【8月26日(木)】

- ・[無料公開]大学入学共通テスト「情報」が目指すもの
- ・IoTが拓く未来：～アフターコロナ社会に向けたIoTの将来像を探る～
- ・[無料公開] データサイエンティスト人材育成に関する
情報処理学会の取り組み
- ・[無料公開] デジタル庁創設関連講演 (予定)
- ・FIT2021 船井業績賞受賞記念講演
「Computational Cameras for Humans and Machines」
- ・トップコンファレンスセッション (コンピューティングとアーキテクチャ、
ソフトウェアシステム、コンピュータグラフィックスと信号の3件)

【8月27日(金)】

- ・Society5.0を支える革新的コンピューティング技術
- ・ヒトゲノム・生体情報と情報処理の課題
- ・ニューノーマル社会の次世代スマート地域
- ・3次元チップ実装とワイヤレス誘導結合チップ間インタフェース
- ・トップコンファレンス

(教育学習支援とマルチメディア, ネットワークとセキュリティの2件)

【3日間を通じて実施予定】

- ・研究会連携セッション
- ・IT情報系キャリア研究セッション ※学生向け
- ・AI-Tech Talk ※社会人向け
- ・インダストリアルセッション

最新情報につきましては以下を御覧ください.

- ・FIT2021 公式ページ:

<https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2021/>

- ・FIT2021 プログラム:

<https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2021/program.html>

HCG シンポジウム 2021 への投稿のご案内

企画幹事

瀬古俊一 (NTT)

【HCG シンポジウム 2021 開催のご案内】

HCG シンポジウムは今年度で 19 回目を迎えます. シンポジウムの特徴として, 工学分野に加え, ヒューマンコミュニケーションに関係が深い心理学, デザイン学, 生理学の分野に精通する関係者も集め, 活発な議論の場を提供しております. また, 今年は文化人類学に関するチュートリアル講演も行うなど, より幅広い視野を得られる企画なども検討しております.

今回もコロナ禍の影響から去年と同様にオンライン開催で準備を進めておりますので, ご投稿, 及びご参加を心からお待ちしております.

【開催案内】

会場: オンライン

会期: 2021 年 12 月 15 日 (水) ~ 2021 年 12 月 17 日 (金)

発表申込開始: 8 月上旬 (予定)

発表申込締切: 9 月中旬 (予定)

発表原稿締切: 10 月下旬 (予定)

予稿集公知: 12 月 8 日 (予定)

【副題】

「新様式でかわりゆく・かわらないヒューマンコミュニケーション」

コロナ禍には人々の自然なコミュニケーションが制限され, 社会の危機を招き, 社会の在り方も大きく変わりました. その中で, リモート会議などの技術により, 人々の間のコミュニケーションが何とか維持されてきました. 一方で, 遠隔でもコミュニケーションを通してつながっていたいという人の変わらない欲求も再認識されました. このような時代を経た今, コロナ以前の生活に戻

ることはなく、環境にあわせて変わっていくものと変わらないものが存在する新しいコミュニケーションの時代を迎えると考えられます。

新たな時代において、ヒューマンコミュニケーション技術は非常に重要な役割を果たします。ヒューマンコミュニケーション技術は、人々がより信頼しあえる社会の構築を支えています。「新様式でかわりゆく・かわらないヒューマンコミュニケーション」と題し、ヒューマンコミュニケーションシンポジウム 2021 を開催します。

【企画】

- ・招待講演：藤田 欣也（東京農工大学大学院工学研究院先端情報科学部門）
- ・チュートリアル講演：伊藤 泰信（北陸先端科学技術大学院大学）
- ・特集テーマセッション：企画募集中
（開催予定：視覚障害者支援，食メディア，ロケーションインフォマティクス）
- ・特別企画セッション：企画募集中（開催予定：デザイン学会と連携した企画）

【懇親会会場】

会場：オンライン

日時：12月16日(木) 夜（予定）

研究会活動紹介（HCS 研究会）

HCS 運営委員長
井上智雄（筑波大）

ヒューマンコミュニケーション基礎（HCS）研究会の活動について、今後の展望を含めてお伝えします。

数多くの学会・研究会と同様に HCS 研究会もコロナショックに突入し、2020年3月より今に至るまでオンライン開催を続けています。

2020年度は、5月「コミュニケーション支援」（HIP 研究会、ヒューマンインタフェース学会 SIGCE と合同）、8月「人と寄り添うコミュニケーション支援のための学際研究」（VNV 研究会と合同）、10月「視覚・聴覚コンテンツとコミュニケーション」、1月「身体運動とインタラクション」、3月「コロナ禍におけるコミュニケーション」を開催しました。2021年度は、5月「コミュニケーション支援」（HIP 研究会、ヒューマンインタフェース学会 SIGCE と合同）を開催し、8月「CSCW の理論・実践に関する研究」（VNV 研究会と合同）を開催予定です。10月まではオンライン開催が決まっています。そして、2022年1月と3月では対面ハイブリッド開催を検討しています。

担当委員をはじめとする関係者の努力等により、これまでオンラインでもスムーズに開催を続けることができていますが、問題もあります。

1 ビデオ会議ツールによるオンライン開催の経験が蓄積される一方で、新たな研究交流が生まれにくいなどの問題も顕在化してきました。研究会は、研究の過程における研究交流、切磋琢磨の機会を提供するという面も強く、活発な議論が重要です。オンライン開催が必ずしもプラスに作用しているとはいえま

せん。

2 HCS 研究会では、人間のコミュニケーションという普遍的な営みへの関心を中心に、幅広い研究対象、多様な人々が集っていますが、物理的な現場などに根ざした実証的な研究が比較的多い特徴があります。コロナショック以降、このような研究の実施には大きな制限が発生しています。この影響が懸念されます。

さて、今回申し上げたいことはこの裏返しです。

1' 急激に普及したオンラインツールやビデオ会議ツールのリアルな大規模データによるヒューマンコミュニケーション研究が加速し、今後多くの課題解決・問題改善が期待できます。

2' ヒューマンコミュニケーションにおけるオンライン比率が高まりました。これらの「現場」を対象とする研究の比率も高まり、新しい地平に多くの研究の種が蒔かれていることが期待できます。

思いがけず「冬」が到来しましたが、来る「春」に多くの新芽が芽吹くのが楽しみになってきました。

ぜひ HCS 研究会にご参加ください。

研究会 WEB サイト

<https://www.ieice.org/~hcs/wiki/>

研究会発足以来の経過と解散について（ADD 研究会）

ADD 運営委員長
縄手雅彦（島根大）

ADD 研究会は 2008 年に WIT の委員長などを歴任された工学院大学の長嶋教授と早稲田大学の市川教授らが WIT の中ではなかなか扱うことが難しい発達障がい児・者の実践的な支援についての研究を行うために検討を始め、私も幹事として参加することになりました。私の参加以前に大まかな組織の枠組みはすでに構築されており、幹事役員にはジャーナリストや文科省政策科学研究所の調査官、また専門委員に精神科医や眼科医、作業療法士など発達障がい児・者を取り巻く現状に詳しい専門家を集め、非常に意欲的な組織形成が試みられておりました。

2008 年 12 月の設立からしばらくは実際の現場や当事者訪問、意見交換などのクローズドな会合（研究会）を多く持ち、工学系の研究者である私などにとってかつてないほどの多くの有用な知見を得ることができたとともに、現場関係者との交友を深めることができました。一方で、幹事や専門委員の中にほとんど工学系の研究者がおらず、幹事会、専門委員会の開催自体が困難な状況が続いていたことも現実でした。2012 年に長嶋委員長が別研究会を立ち上げるために委員長を辞任され、また、発足当初の幹事役員や専門委員の異動などでそれ以後幹事の大幅な変更を余儀なくされましたが、適任の研究者を見つける

ことが困難でほぼ欠員がある状態を続けながら研究会を維持する状態でした。

個人的には発足以来の研究会による交流で、音読音韻検査の開発・販売や学習障がい支援のための学習ゲームの雑誌連載など実用的な部分やいくつかの学術論文の採択などにつなげられ、また、人を対象とした研究の実績が認められ学内の研究プロジェクトの一つの責任者を任せられるなどそれなりの実績を上げました。ほかにも、長嶋前委員長とかわばた眼科とで共同開発された視知覚検査 STVP の公開などいくつかの成果を上げられたものの、学会の中での本研究会の役割はそれほど拡大できず、各種の学術講演会や研究会で関係しそうな研究者をリクルートして幹事組織の維持と若返りを狙ったものの、特に関東近辺での新規研究者の発掘が困難で徐々に体制としては縮小の一途をたどることになってしまいました。通信学会にコミット可能な研究者で発達障がい支援の実践的な取り組みを研究に落とし込める若手を最後まで見出すことができず、現在の幹事組織（委員長と幹事 1 名）ではこれ以上の発展を期待できないと考え、この度解散のお願いをすることとなりました。

これまで多大な支援をいただいておりますが、このような事態に陥ってしまったことはひとえに委員長である私の責任であり、力不足を痛感しています。これ以上の貢献は難しいこともあり、解散についてお認めいただきたいと存じます。

=====

ヒューマンコミュニケーショングループ研究会・関連行事について、
詳しくは HCG ホームページ <http://www.hcg-ieice.org/> をご覧ください。



電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ

Copyright (c) 2021 IEICE, All Rights Reserved.



☆e-mail による情報配信を必要としない方は、その旨 henkou@ieice.org まで
会員番号、氏名をご連絡ください。処理に 1 ヶ月程度かかりますので、入れ
違いに、再度情報配信された場合は、ご容赦ください。

（ご連絡いただいた場合は本会、登録ソサイエティ、グループ、支部、からの
全ての情報配信が止まりますので、情報配信を再度希望される時も、その旨、
henkou@ieice.org までご連絡下さい。）

ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice

（社）電子情報通信学会 サービス事業部

TEL:03-3433-6691 FAX:03-3433-6659